

三浦 義光 議員 政新会



問 これからの弥富市観光事業は

答 より効果的なPR方法で発信

人口減少は、あわせて労働人口も減少させ消費が縮小する。改めて弥富市の魅力を見出すため観光事業を考える。

問 ふるさとやとみ応援寄附金の状況は。

答 (財政課長) 3月1日現在で、338万2千円。

問 お米、金魚関連以外の返礼品は。

答 味付け海苔セットや文鳥の葉、食品サンプルなど。

問 金魚養殖支援とともに、観光事業の将来像は。

答 (市民生活部長) 金魚の魅力をより効果的なPR方法で発信する。
ブランド化という新たな方向にもベクトルを伸ばし、これまでにない層にも仕掛けていくことで、観光事業にも効果が見込める。



問 食の魅力に関する観光の目玉としては。

答 (農政課長) 関係機関が、生産者、JA婦人部、佐屋高校、愛知黎明高校などと連携し、地域の食のブランド化が図られる。このような活動、情報発信を支援していく。

問 駅前整備の早期実現を

答 にぎわいを創出し次の展開を

問 弥富駅中央駅前広場構想とは。

答 (都市整備課長) 都市計画に定められた都市施設の名称。これまで地権者説明会、戸別面談方式のアンケートを実施。

問 駅周辺の弥富名古屋線、歩道設置を。

答 (土木課長) 県と協議・調整し、駅周辺の街づくりと併せて整備。

問 近鉄弥富駅とJR・名鉄弥富駅をつなぐ総合的な整備の実現は。

答 (都市整備課長) JR弥富駅と近鉄弥富駅を人工地盤で結ぶ検討はしていない。

問 駅前整備とJR・名鉄弥富駅自由通路及び橋上駅舎化事業との関連性は。

答 (市長) 市の顔となる駅、駅周辺に賑わいがなければ、次の展開も難しい。
駅中央駅前広場、弥富名古屋線の整備と併せ、コンパクトに一体化された、人が集い・交流する空間の形成を目指す。



▲ JR 弥富駅